伊那市 官民共創の新しいまちづくり協議会

会議名	第4回 まちなかエリア高度化 WG		
開催日	2024年12月24日(火)		
開催時間	開会	18:45	閉会 20:10
開催場所	伊那市役所1階 多目的ホール		
出席者			
協議会・WGメンバー	黒河内貴氏、志知貴文氏、鈴木孝之氏、政金裕太氏、土田智氏、瀧内貫氏		
事務局・職員	企画部：織井企画政策課長、有賀企画政策課長補佐、村田新産業技術推進係長、福原新産業技術推進コーディネーター		
関係者	—		
欠席者	細谷啓太氏		
議事	1、対話・つながり・実現の場について		

議事項目	概要	次のステップ
あいさつ	<p>○WGメンバー</p> <p>・今日は、対話・つながり・実現の場（以下「対話の場」という。）について、誰を呼ぶか、90分のダイアログの時間をどう使うか、どう進めるかを決めていきたい。</p>	
1、対話・つながり・実現の場について		
呼びたい方	<p>○WGメンバー</p> <p>・今のまま対話の場を進めると、自分のライフスタイルの中で、まちなかエリアと何も関係ないと思っている人たちが置いてけぼりになってしまう気がする。</p> <p>・持続可能なまちづくりにするのであれば、キックオフイベントの1回目なのか2回目以降なのかはわからないが、そういった方たちに合流してもらったほうがよいと思う。</p> <p>・今回、自分の幼稚園児の息子のお友達のお父さんやお母さんに声を掛けようと思っている。テレワーカーの方もいれば、首都圏の企業に勤めている方もいる。そういった方が参加したときに何も語れないような場だとすれば、声を掛けるのを止めようと思っている。</p> <p>○協議会メンバー</p> <p>・対話の場は、何も語らなくても聞くだけでも意味がある。</p>	

<p>声の掛け方</p>	<p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none">・自分ですら、前回の WG でまちなかエリアの話を聞いて、ハッとすることがあり、何かしなくてはと思った。・知ることによって行動したいと考えること自体がすでにまちづくりの始まりだとしたら、まず知らなければ行動できないし、知らないから関係ないと思ってしまうのではないか。・対話の場が、別に何も語らなくても、現状を知ることができるという場であれば、まちなかエリアに何も関係ないと思っている方も呼びたいと思う。	
<p>対話の場の設定</p>	<p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none">・我々から声掛けをすると、「参加しなきゃいけない」という感じに受け取られてしまうので、もっと気軽に「聞くだけでもよいですよ」ということは、補足的に伝えられればよい。 <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none">・チラシ裏面の「こんな方に！」の 4 つ目として「伊那市についてももう少し知りたい」みたいなことが書いてあると敷居が下がるのではないか。 <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none">・情報発信と対話を続けながら、対話の場の 4 回目や 5 回目に意思決定のようなことをするのだとしたら、市民が主役のまちづくりなので、意思決定もすごく大掛かりなものになる。2 回目以降の対話の場を工夫しなければならない。 <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none">・私の理解では、対話の場は、意思決定する場ではなく、まちなかエリアには、過去、現在、未来、いろいろな人がいて、その人たちが情報交換をしていると、触発されたり応援したくなる、そういったことが自然発生する場を用意するだけと思っている。 <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none">・そのように知ることができる場であれば、1 回目から裾野を広げてよいと思う。 <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none">・過去、現在、未来の話を共有すること自体も楽しいけれど、その場だけで消えてしまわずに外に繋がっていくことを期待したい。もしかしたらこの WG が他の WG の後方支援に回ることもあるかもしれないし、この WG から主体が生まれて他の WG を作ることもあるかもしれない。 <p>○WG メンバー</p>	

- ・他の2つのWGは目的が明確なので、参加者が継続して対話の場に来てくれる気がするが、このWGは気を付けないと次に来てもらえない。言わばなしで、参加者が「何を話しているのだろう」という感じになる気がする。
- ・初回は、話したいことを話す何でもありの場ですが、2回目以降は、「次回はこういうことを話します」と示した方がよい。例えば、「まちなかエリア以外に住んでいる人も訪れたいまち」、「観光で訪れたいまち」、「高校生が滞在したいまち」、「直線的な賑わいではなくて曲線的な賑わいってなんだろう」、「これからの賑わいってなんだろう」といった、ある程度幅があって多様な人が参加できるテーマに絞り込む必要がある。
- WGメンバー
 - ・今回はこのテーマとある程度決めてやっていくという形か。
- WGメンバー
 - ・いくつかのテーマで同時に開催する分科会のような形でもよいと思う。方向性によって自分たちが呼びたいと思っている人が楽しく話せそうな分科会のテーマを想定しておくのがよいと思う。
- WGメンバー
 - ・例えば「交通」というテーマにすると、「まちなかエリアの交通なんて関係ない」という人が大多数になる。それであれば、その分科会にはまちなかエリアの交通に利益を享受できる人たちが集まればよい。
- WGメンバー
 - ・まちなかエリアでどう過ごしたいか、どう使いたいかという話をした方がよい。
- WGメンバー
 - ・1回目の対話の場で、グループに分かれて対話をする際に、別グループで同じような話をしている人がいれば、他のグループの人と話せるようにファシリテーター側で整理して、2回目に繋げるような形がとればよい。
- WGメンバー
 - ・1回目は、参加した人がみんなで話したねという気持ちになれるようなワールドカフェ形式で開催し、最後に「みんなこんなことを思っていたのですね」ということをファシリテーターが話をして、そこにこちらで想定しているテーマを掛け合わせて、「こ

	<p>のWGでは今後こういうテーマで対話していきましょう」という流れにすればよいと思う。</p> <ul style="list-style-type: none">・ファシリテーターの難易度はかなり高い。 <p>○WGメンバー</p> <ul style="list-style-type: none">・「まちなかエリア」で想定するエリアは、山寺、坂下、荒井、西町の4区でよいか。 <p>○WGメンバー</p> <ul style="list-style-type: none">・言葉の定義としては、山寺、坂下、荒井、西町の4区であるが、対話のテーマがそこを超えてはいけないということではない。 <p>○WGメンバー</p> <ul style="list-style-type: none">・例えば「学び」というテーマであると、まちなかエリアだからこそ学びが高度化するとか、学びが深まるとか、だとしたら、学びが深まるにはどうしたらよいかといった対話になると思うが、「学び」というテーマは、その先にも何かありそうな気がする。・例えば「まちなかエリアだからこそ生まれるビジネス」というテーマであったら、まちなかエリアに行けば何か付加価値やメリットが生まれると思えるかどうか前提になる気がする。 <p>○WGメンバー</p> <ul style="list-style-type: none">・「学び」とか、「ビジネス」とか言ってしまうとかなり細分化されてしまうが、もう少し手前の「風景」とか「居場所」という話から、そこには生業もあれば暮らしもあるというような話ができれば、次のテーマを抽出していけるのではないかと思う。 <p>○WGメンバー</p> <ul style="list-style-type: none">・仮にまちなかエリアがこれから変わっていく前提だとしたら、自分の今の生活になぞらえて、「まちなかエリアでどんなメリットを感じたいですか」、「どんな風景を作りたいですか」というテーマで対話をすると、例えば仕事上で、伊那市ではイノベーションが起きる場所がないと思っている人が、「まちなかエリアに業者の方と関われる場所が欲しい」と答えるかもしれない。・例えば、1回目のテーマを「まちなかエリアを活性化させるとしたらどんな付加価値を得られる場所が欲しいですか。どう行動したいですか」とした結果、「まちなかエリアは、学びを深められる場所であってほしい」という意見が多ければ、2回目では、「学び」というテーマでのまちづくりの話を楽しもうという方向になるかもしれない。 <p>○WGメンバー</p>	
--	---	--

- ・現状まちなかエリアに関わっていない人をどう取り込むかは結構難しい課題で、まちなかエリアに滞在している人たちが、まちなかエリアになぜ滞在していて、何を得られているかを聞いて蓄積したい。まちなかエリアに関わっていない人を取り込む参考になる。
- WG メンバー
- ・対話の場の参加者が何のために参加するのか、目的を設定できるようにしなければならない。
 - ・参加者の顔が見えていない状況でテーマ設定するのは難しいので、1回目はやはり過去、現在、未来どう過ごしたいか、何をしたいか広く話をするのがよいと思う。
 - ・それによって、我々も含めた参加者にとって、まちなかエリアにどんな風景ができてほしいかを描けると思う。
 - ・2回目以降に、まちなかエリアに住んでいる人や特定の世代だけでなく、いろいろな人が話せるテーマ設定を考える必要がある。
 - ・例えば「まちなかエリアに住んでいない人がまちなかエリアを経由する暮らし」や、「まちなかエリアの高校生の居場所づくり」、「稼げるまちなかエリア」というテーマ設定などで、公共交通や新産業技術というのはそのテーマに内包されるものになるのではないか。
 - ・対話により、「高校生としてはまちなかエリアはこうなってほしい」とか、「これがあればまちなかエリアに行くよね」といったものが出てくる。それは生活必需品だったり、文化的なものだったり、娯楽的なものだったりいろいろあると思われ、さらに細分化する可能性もある。
 - ・対話するためには、流域治水のようなインプットが必要だと考えており、ただ現状をインプットすると、「減っている」、「使われていない」、「困っている」みたいなネガティブな話ばかりになりがちなので、そうではなく海外や国内のまちづくり事例みたいなものをインプットする必要があると思う。
 - ・インプットをすることによって、「それいいね」という話になってくれば、チャレンジしてみようという話になる。
 - ・このような対話の設定ができれば、多分我々が望んでいる皆さんが継続して対話に参加してくれそうな気がする。

	<p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までの常識のまま対話をするのはもったいない。常識を広げるインプットはたくさんやったほうがよい。 <p>○協議会メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対話のグラウンドルールに、「理屈や知識でなく、自分の経験に基づいて話す」というルールがある。 ・例えば少子化・人口減少なども知識でなく自分の子供たちという目線で話してほしい。 <p>○協議会メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対話の場の進め方はどうするか。 <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1 回目はワールドカフェ形式でファシリテーターは全員でやる。 ・ワールドカフェは、みんなと話せていないけれど、みんなと話したと思えるのが特徴である。 ・どんな人が参加するかが見えると。2 回目以降の進め方も見えてくると思うので、対話の場の前に作戦会議をした方がいい。 <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いなまちで何をしてきましたか」と聞いてしまうと、いなまち以外に住んでいる人を排除してしまうので、「いなまちとどう関わってきましたか」くらいの問いでよいのではないか。 <p>○WG メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去については、どう関わってきたか、未来については「どう過ごしたいか」でよいのではないか。 	<p>1 回目の対話テーマ</p> <p>「いなまちとどう関わってきましたか。いなまちでどう過ごしたいですか」</p> <p>対話の場の進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワールドカフェ形式 ・WG メンバー全員でファシリテート ・最初と最後のまとめと、いなまちの歴史のインプットを WG メンバーが行う。
--	---	--

■今後のスケジュール

- ・ 1 月 7 日(火) 午後 6 時 30 分～ すまいテラスいな WG
- ・ 1 月 21 日(火) 午後 6 時～ いなっせ 6 階ホール・ホワイエ キックオフイベント